



(1,500円)

実用新案登録願(2)

昭和47年10月19日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 考案の名称 ^{フリガナ} **物品収納体** ^{フツモノホクリタイ}
2. 考案者 **熊 所 神奈川県 平塚市 平塚 2310**
氏 名 **熊 井 誠**
3. 実用新案登録出願人

^{シナガワ カシナガワ}
東京都品川区北品川6丁目7番35号
(218) **ソ ニ ー 株 式 会 社**
代 表 者 **盛 山 昭 夫**

4. 代 理 人 **160**

住 所 **東京都新宿区西新宿1丁目8番1号 (新宿ビル)**
TEL 東京 (03) 343-5821 (代表)
氏 名 **3388 井理士 伊 藤**

5. 添付書類の目録

(1) 明 細 書	1 通
(2) 図 面	1 通
(3) 願 書 副 本	1 通
(4) 委 任 状	1 通

方 式 特 許 庁



47 120366

明 細 書

考案の名称 物品収納体

実用新案登録請求の範囲

正面板と背面板との間に溝及び才１の折り曲げ部が設けられ、上記正面板には収納した物品の位置決め用の透孔が形成され、上記背面板と可撓性フィルムとで袋部が形成され、上記背面板には上記袋部を広げるための才２の折り曲げ部が設けられると共に、上記正面板及び上記背面板には、これらを上記溝及び上記才１の折り曲げ部に沿って折り曲げたときに、上記正面板及び上記背面板に係合する係合子が設けられた物品収納体。

考案の詳細な説明

一般に、テープレコーダ、ラジオ受信機などの電子機器を梱包する場合には、まずその電子機器をカートン内に収納し、次にカートンと電子機器との間のすきまに、付属アクセサリ、例えば接続コード、電源コードなどの小物部品を入れるようにしている。

このため小物部品はあらかじめ適当な収納体（

収納パック)に入れておくのが普通であり、そのような収納体としては箱状パックあるいはフィルムスキンパックがあるが、箱状パックは固定方法に問題があるうえに、収納品が外から見えない欠点があり、一方フィルムスキンパックはパック用の特別の機械を必要とすると共に、復元性がなく、一度フィルムをはがすと、再使用できない欠点がある。

本考案はこれらの欠点を一掃すると共に、さらにその小物部品を単体で販売する場合の収納体としても好適な収納体を提供しようとするものである。以下本考案の一例を図面について説明しよう。

本考案においては、例えばオ1図に示すように、収納体を台紙00と可撓性フィルム(1)とにより構成する。

この台紙00は二つ折りにされ、その間にフィルム(1)とによつて物品を収納するものであり、このため台紙00はダンボール紙などによつて全体として例えば図2は長方形に形成される。そして台紙00を二つ折りにするとき折り目となる位置、即ち

台紙00の中央には一方の長辺から他方の長辺に向かつて例えば中心まで連する溝あるいは切り込み01が形成されると共に、この切り込み01の延長する位置に半切線、ミシン目、絞りなどにより折り曲げ線02が形成される。従つて台紙00は切り込み01と折り曲げ線02とによつて二分されるわけであるが、その二分された一方を部分03、他方を部分04とすると、物品の収納時には、部分03が正面板、部分04が背面板とされる。

この部分03には収納した物品の位置決めを行う透孔05が形成され、一方部分04には切り込み01と折り曲げ線02の交点から台紙00の長辺に平行に折り曲げ線06が形成される。また台紙00を二つ折りにしたとき、その状態を保つための係合子として、部分03の短辺には突出部07が台紙00に一体に形成され、また部分04の短辺にも突出部08が台紙00と一体に形成されると共に、突出部08には突出部07をさし込むための透孔09が形成される。また突出部07、08には折り曲げ線01、02も形成される。

一方、フィルム(1)はポリエチレンなどの可撓性

を有して透明または半透明なものにより筒状に形成される。このフィルム(1)の大きさは、これを部分14にかぶせたとき、ぴつたりかぶる程度とされる。

次にこの収納体による物品の収納方法を説明すると、才2図に示すように、まず折り曲げ線12に沿って突出部10を折り返し、次に折り曲げ線12に沿って部分14をし字状に折り曲げる。そしてこの状態で部分14にフィルム(1)をかぶせる。このとき部分14とフィルム(1)との間に空間が形成されるので、ここに収納すべき物品、例えばコード10を入れる。

そしてコード10を入れたら、才3図に示すように、折り曲げてあつた部分14を平らにすれば、フィルム(1)は張られた状態になり、コード10はフィルム(1)によつて部分14に押しつけられる。

そこで才4図に示すように、折り曲げ線12に沿つて台紙10を二つ折りにし、また突出部10を透孔16にさし込む。このようにすれば、コード10は透孔16を通じて部分14の外に面するようになると共

に、透孔19によつてその位置が規整される。

こうして本考案の収納体においてはコード10などの物品が収納されるわけであるが、この収納体によれば、物品の収納が非常に簡単であり、また容易である。さらにフィルム(1)として透明あるいは半透明なものを使用できるので、収納後にその収納品を見ることが出来る。またフィルムスキャンバックの場合のように、特別なバック機械は不要であり、また収納体自身も台紙10とフィルム(1)だけであるから、非常に経済的である。特に台紙10に特別な加工を必要としたりせず、またフィルム(1)も製造時に円筒状にできてくるものをそのまゝ所定の長さで切るだけでよいから、この点からしても低コストとなる。

また収納した物品の取り出しも、上述の収納とは逆に行えばよく、やはり簡単容易であると共に、再び物品を収納することも出来る。さらに第4図に示すように部分11)の外面に使用法などを印刷しておくことも出来る。またこのように使用法などを印刷しておくことができると共に、収納された

物品が見えるので、その物品を単体で販売する場合の収納体としても使用でき、従つてその物品を電子機器のアクセサリ部品として電子機器と共にカートンに入れる場合と、単体で販売する場合とに応じて収納体を用意する必要がなく、能率のあるいは経済的である。

なお上述においては、フィルム(1)を筒状とした場合であるが、第5図に示すように、フィルム(1)をシート状とし、これを部分10に対して長辺の部分10で例えばはりつけるようにしてもよい。さらに部分10とフィルム(1)とにより底なしの袋部が形成されるが、フィルム(1)の端部を部分10に例えばはりつけてその袋部に底が形成されるようにしてもよい。また切り込み11の長さ及び折り曲げ線12の位置も、部分10を折り曲げたときに、これとフィルム(1)とにより物品を収納するのに充分な空間ができるようなものであればよい。さらに切り込み11及び折り曲げ線12の位置も、台紙10を二つ折りにしたとき、その状態を保つための係合子に応じて変更できる。

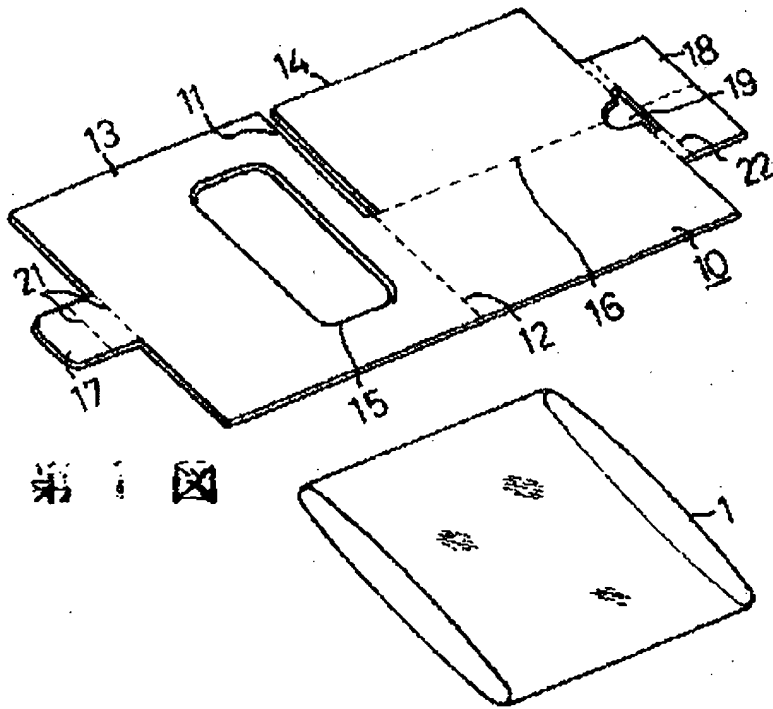
図面の簡単な説明

才 1 図は本考案の一例を示す斜視図、才 2 図～才 4 図はその収納方法を示す斜視図、才 5 図は本考案の他の例を示す斜視図である。

(1)はフィルム、(2)は合紙、(3)は切り込み、(4)、(5)は折り曲げ線、(6)は透孔である。

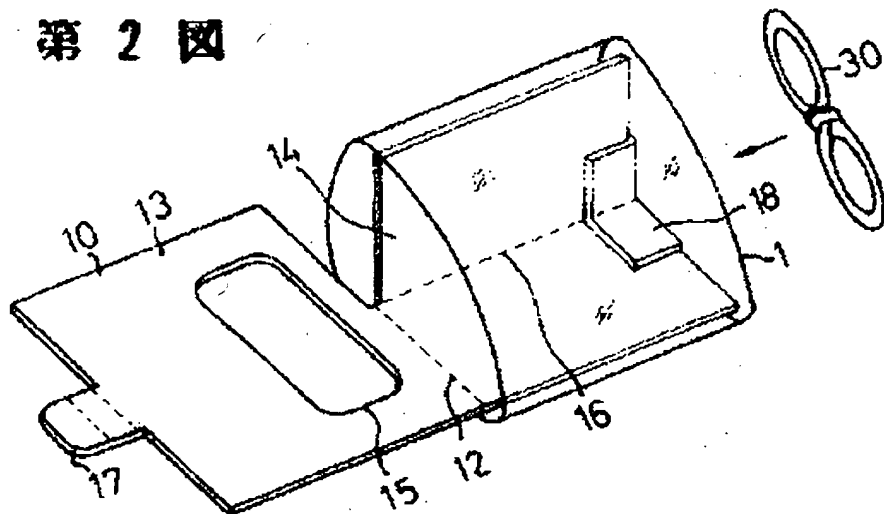
実用新案登録出願人 ソニー株式会社

代 理 人 伊 藤 貞

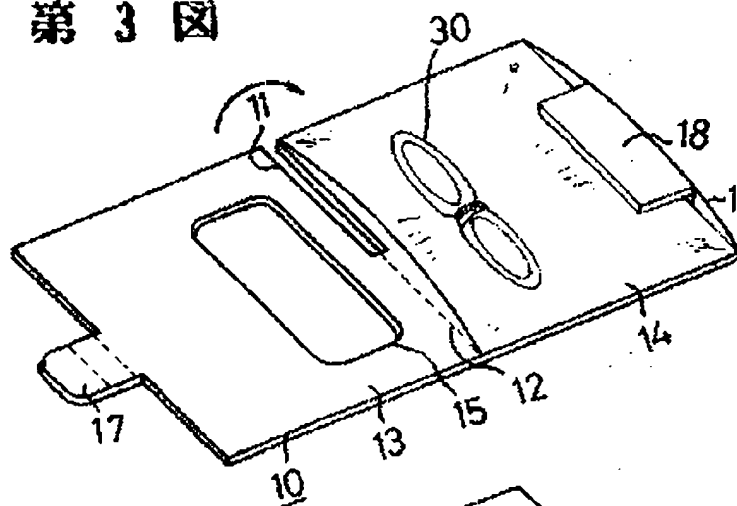


第 1 図

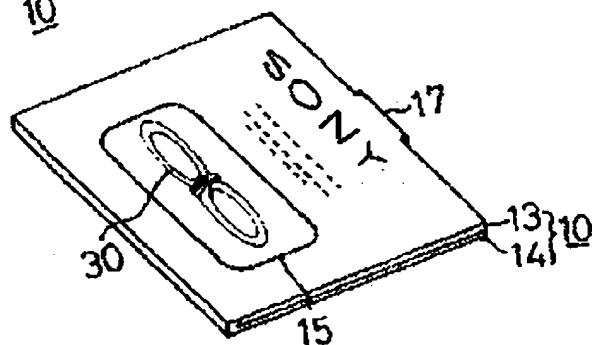
第 2 図



第 3 図



第 4 図



第 5 図

